

式 辞

銀杏の木々が夕陽を浴びて、これから芽を出そうと、体内にそのエネルギーを満たし、「一刻値千金」と古人も讃えた、この佳き春の宵に、多数の御来賓の皆様の御臨席を賜り、令和元年度 愛媛県立松山南高等学校卒業証書授与式を挙げていただきますことを、教職員、生徒一同心から感謝申し上げます。

十三名の卒業生の皆さん、御卒業おめでとうございます。私は、皆さんの部活動における活躍や、進路実現にひたむきに努力する姿を見守ってまいりました。とりわけ、役員を中心に生徒会行事として取り組んでいただいた、芋炊き観月祭り、運動会、文化祭などの行事の、見事な盛り上がりとその温かい雰囲気、その都度感激し、「南高定時制」の伝統ここにありと、改めて感じ入りました。特に今年の芋炊き観月祭は、昨年の春、お亡くなりになられた元同窓会長の山崎さんが丹精込めて作ってくださっていた芋を畑まで掘りに行っての行事でした。山崎さんの思いをかみしめておいしく頂戴いたしました。運動会では、綱引きを共にさせていただいて、見事優勝することができました。文化祭やオール松山南の芸術文化発表会もとても盛り上がりました。卒業生の皆さんの真摯な取組に心から感謝しています。ありがとうございました。

保護者の皆様、本日はおめでとうございます。お子様の晴れの姿をご覧になられて、感慨もひとしおのことと推察申し上げます。この日を迎えるまで、お子様の成長の過程では、いろいろな御苦労がございました。高校入試では気をもまれたことでしょうか、元気で学校に通っているか、友達とはうまくやれているか、勉強は大丈夫か、夜遅いけれど事故に遭ってはいないかなどと、気の休まる日がなかったのではないかと思います。そのような苦労や心配は、まるで杞憂であったかの如く、お子様たちは立派に成長され、今日御卒業であります。本当におめでとうございます。

さて、卒業生の皆さん、これからの時代を生きていく皆さんには、自分の夢や希望をしっかりと持って、その実現に努力するとともに、社会の中での自分の役割を考え、生涯を通じて果たすべき「志」を持ってもらいたいと思います。

そして、志の実現のために、「心を耕し、言葉を磨いて」いただきたいと思います。様々な経験を通じて心を掘り起こし、未知の自分を知り、苦しいことや辛いことを乗り越えて、よりたくましく、より優しくなりたい。困難や失敗、挫折や落胆こそが、心の肥料となるということを忘れないでください。そして、今は苦しくてたまらないということがあっても、必ずや時間が解決してくれるということも覚えておいてください。何とかなるものです。困ったら人の力を借りましょ

う。誰かが救いの手を差し伸べてくれます。私は、いつも「他力」を借りてきました。お蔭で、今日まで勤めることができました。

また、人とつながり、互いを尊重・敬愛し、分かり合うために、自分の思いが相手の心に響くように、言葉を磨いていきましょう。かつて、塔 和子さんの詩を紹介しましたが「ああ 何億の人がいようとも かかわらなければ 路傍の人 私の胸の泉に 枯葉いちまいも 落としてはくれない」この詩に込められた悲痛な叫びと熱い思いをかみしめるとき、私たちは、周りの人とより良くなかかわっていく義務があると思います。

言葉一つで、人間関係は違った様相を呈してきます。言葉によって人は勇気づけられ、元気が湧いてきます。時には、その人の人生を大きく左右することもあります。そのような言葉の力を知り、その力を獲得することで、より良い人生を歩んでいきましょう。

「志高く 心を耕し 言葉を磨け」これが卒業される皆さんへの餞の言葉です。皆さんは、これからの地域や社会を担う、「心温かき南高定時」の卒業生です。温かく思いやりの心を持って人に接し、優しさと潤いのある世の中にしてもらいたいと願っています。皆さんの成長に、少しでも関わったことが、私たち南高定時制の教職員の幸せであり、誇りです。

皆さんが社会に出て、困ったことがあったら、心のふるさとであるこの松山南高定時制を訪ねて来てください。

いつでも、先生方が待っていて、「お帰り」と温かく迎えていただけるはずです。

最後になりましたが、御列席いただきました御来賓の皆様、保護者の皆様に改めて感謝申し上げます。式辞といたします。

令和二年三月一日

愛媛県立松山南高等学校

校長 染田 祥孝